

新婦人しんぶん

新日本婦人の会目的

- ☆核戦争の危険から女性と子どもの生命をまもります。
- ☆憲法改悪に反対、軍国主義復活を阻止します。
- ☆生活の向上、女性の権利、子どものしあわせのために力をあわせます。
- ☆日本の独立と民主主義、女性の解放を勝ち取ります。
- ☆世界の女性と手をつなぎ、永遠の平和をうちたてます。

今週の紙面

- 2面 令和の百姓一揆／女性ニュース／国会スポット
- 3面 読者／まんが／短歌
- 4面 学校給食無償化アンケートより／ジェンダー講座／ホットライン
- 5面 災害時の連絡方法／母の歴史
- 6面 新婦人／主張／はとラジ紹介
- 7面



東京・日の出町 折田ナナ

新日本婦人の会は国連に認証されたNGOです



最期まで自分らしく暮らしたい(本文とは関係ありません)

現実は、在宅で介護を受けるか、病院や施設に移るか、選択の余地はないのが現実です。

でも本来、最期まで好きな場所で、自分らしく安心して暮らす自由は、高齢者にだけあるはず。解決するカナダ

カナダでは、国の公的年金(日本)の有無に関わらず65歳以上になると老齢年金(日本の国民年金)が支給されます。また公的な支給金によって福祉サービスが受けやすいしくみになっています。



トラクターでデモ行進し、「日本の農業を守ろう」「すべての農民に所得補償を」と沿道の人にアピールした(3月30日、東京都渋谷区)＝記事は2面

令和の百姓一揆

2019年、家族介護

本人も家族も参加し改善

制がとられます。



2019年4月、障害者の権利擁護団体(HVD)や専門家らが「長期ケア施設のケア改善のための提言書」を政府に手渡した。左から2番目が高齢者・介護者政策担当大臣(HVDのFacebookより)

者、施設入居者、施設経営者やソーシャルワーカーなど専門家も参加した協議により、「長期ケア施設のケア改善のための提言書」が州政府の保健・福祉省担当大臣に提出されました(写真上)。

〈2面〉

最期の場所を選択できる社会へ

元日本社会事業大学
社会福祉学部教授
高橋流里子さんに聞く



たかはしりこ 専門は社会福祉学・ソーシャルワーク。理学療法士。20年間埼玉・北本市の在宅重度障害児、者のリハビリテーション事業に従事。その後、ソーシャルワーカー・保健師など専門家とともにボランティア団体を組織し、高齢者・障害のある人の保健・福祉の相談活動を行う。

「人生の最期をどこで過ごすか？」一高齢者になり、日常生活に多くの助けが必要になった時、誰もが考えざるをえません。ソーシャルワークの面から在宅ケアに関わってきた高橋流里子さんに、日本とカナダの保健福祉の比較を聞きました。

好きな場所で暮らしたい：みなさんは、数年後、または10数年後、どこで

暮らしているか想像できますか。今は自宅にいますが、元気づけに施設に入ろうか。その場合、お金は足りるだろうか。

またすでに家族を介護している、自分が倒れたらどうすればいいだろう...など悩みはつきません。

日本では、高齢や障害で日常生活が不自由になったときに備えて、公的年金保険、介護保険制度、障害者福祉などの社会保障制度を整備してきました。

しかし介護・医療従事者の人材不足、昨年は訪問介護報酬も減額されるなど年々制度が改悪され、限られた年金と保険利用のなかで、在宅で介護を受けるか、病院や施設に移るか、選択の余地はないのが現実です。

カナダでは、国の公的年金(日本)の有無に関わらず65歳以上になると老齢年金(日本の国民年金)が支給されます。また公的な支給金によって福祉サービスが受けやすいしくみになっています。

ケベック州では「ホームケア」が充実しています。ホーム(在宅)ケアとは、自宅でのさまざまな「暮らしの困難」を解消する公的サービスです。「暮らしの困難」については、子どもでも、高齢者でも、障害があってもなくても違いはないという考えです。

